

第2回能登半島地震復興支援県民本部会議

日時：令和6年3月21日 10時45分

場所：災害対策本部室

1 開会

2 議事

(1) 県による支援活動について

(2) 構成員による支援活動について

ア 支援活動の実績について

イ 今後の支援活動について

(3) その他

3 閉会

能登半島地震復興支援県民本部会議 構成員名簿（敬称略）

（3月21日現在）

○ 市町村関係団体

- ・長野県市長会
- ・長野県町村会

○ ボランティア、NPO関係団体

- ・長野県社会福祉協議会
- ・長野県NPOセンター
- ・長野県みらい基金
- ・長野県生活協同組合連合会
- ・日本笑顔プロジェクト
- ・ながの移動販売つなぎ局
- ※ライオンズクラブ国際協会 334-E 地区

○ 建設関係団体

- ・長野県建設業協会

○ 経済関係団体

- ・長野県経営者協会
- ・長野県中小企業団体中央会
- ・長野県商工会議所連合会
- ・長野県商工会連合会

○ 卸売関係団体

- ※長野県青果卸売市場連合会
- ※長野県水産卸連合会

○ 農業関係団体

- ・JA長野県グループ
- ・長野県土地改良事業団体連合会

○ 労働関係団体

- ・日本労働組合総連合会長野県連合会

※ は新たに参加した構成員

令和6年能登半島地震に伴う県内影響及び被災地支援について

令和6年3月18日(月) 現在
危機管理防災課

1 地震の概要

発生日時	令和6年1月1日(月) 16時10分頃
マグニチュード	7.6
発生場所	石川県能登地方 深さ:16km
県内の震度	震度5弱 3市町村(長野市、信濃町、栄村) 震度4 10市6町6村 震度3 41市町村
各地の震度	震度7 石川県輪島市、志賀町 6強 石川県七尾市、珠洲市、穴水町、能登町 6弱 新潟県長岡市、石川県中能登町

2 長野県の体制

体制	1月1日(月) 16時10分 警戒連絡会議 設置 1月5日(金) 能登半島地震 長野県災害対策支援本部 設置 (※ 災害対策支援本部設置に伴い警戒連絡会議廃止) 2月6日(火) 能登半島地震復興支援県民本部に改組
----	---

3 県内の主な被害状況

人的・住家被害	人的被害:なし 住家被害:長野市 一部破損12棟、松本市 一部破損1棟 佐久市 一部破損1棟、小谷村 一部破損4棟
---------	--

4 被災地支援

(1) 緊急対策(救助・救出・救援)

支援内容	支援先	支援期間
緊急消防援助隊(航空) : 延べ30名 (陸上) : 延べ558隊1,983名	小松空港 珠洲市	1/1 ~ 1/9 1/9 ~ 1/22
長野県警察災害派遣隊 : 延べ2,319名	石川県内	1/1 ~
ドクターヘリ	〃	1/2、5、11、14
長野県DMAT(災害派遣医療チーム) : 49チーム 長野県DMATロジスティックチーム : 2名	〃	1/2 ~ 2/14
長野県DPAT(災害派遣精神医療チーム) : 2チーム	〃	1/5 ~ 2/10

(2) 避難所等支援

支援内容	支援先	支援期間
応援給水(県企業局含む25事業者)	石川県内	1/2 ~
キッチンカーによる避難所への食事提供 : 8事業者	輪島市	2/1 ~ 2/12
物資支援 飲料水 : 500ml・24,216本、2L・558本 アルファ化米 : 9,100食 ブルーシート : 4,241枚、簡易トイレ : 5,000袋 など ※ この他、県社協のとりまとめによる物資支援あり	羽咋市 輪島市 七尾市 中能登町	1/2 ~ 提供:長野県 2市

(3) 人的支援

支援内容	支援先	支援期間
応急危険度判定士（建築士、県・市職員）：延べ 228 名	石川県内	1/4 ～ 1/21
被災宅地危険度判定士（県・市職員）：延べ 27 名	内 灘 町	2/13 ～ 2/21
下水道復旧支援調整隊(国交省)へ同行 (県職員)：延べ 170 名	石川県内	1/5 ～
下水道管渠の被害状況調査（県・市町村職員） 一次調査：延べ 170 名、二次調査：延べ 336 名	〃	1/8 ～
上水道調査復旧作業（市町村職員）：延べ 76 名	七 尾 市	2/8 ～ 2/29
災害廃棄物処理業務（市村・組合職員）：延べ 90 名	七 尾 市 志 賀 町	1/13 ～
治山施設及び山地災害危険地区等の被害状況調査 (県職員)：延べ 25 名	輪 島 市	2/5 ～ 2/29
保健師等（県・市職員）：延べ 405 名	金 沢 市 小 松 市	1/9 ～ 3/8
長野県 DWAT（災害派遣福祉チーム） 先遣隊：延べ 18 名、災福ネットチーム：延べ 475 名	能 登 町	1/8 ～
生活福祉資金貸付業務 (長野県社会福祉協議会職員)：延べ 8 名	志 賀 町	1/30 ～ 2/2
獣医師（県職員）：延べ 1 名	石川県内	3/18 ～
長野県合同災害支援チーム（チームながの）		
リエゾン(情報連絡員)（県職員）：延べ 122 名	羽 咋 市	1/5 ～
避難所支援業務等（県職員）：延べ 254 名	〃	1/6 ～
災害により発生したごみの受入れ業務 (市町村職員)：延べ 544 名	〃	1/11 ～ 3/17
住家被害認定調査・罹災証明書発行に係る窓口支援業務 (市町村職員)：延べ 671 名	〃	1/14 ～
支援物資調整・避難所支援業務等（県職員）：延べ 416 名	輪 島 市	1/8 ～
避難所支援業務（市町村職員）：延べ 864 名	〃	1/14 ～
総括支援チーム（県・長野市職員）：延べ 16 名	〃	1/14 ～ 1/21

(4) 被災者の受入れ

内容	受入対象者	受付期間
公営住宅等の提供（254 戸）	能登半島地震により居住継続が困難となった方	1/15 ～ 3/29
被災者の受入れ可能な県内宿泊施設数 3/15 15 時現在：179 施設 3,109 名	珠洲市、輪島市、能登町、穴水町、 七尾市、志賀町 にお住まいで被災された方	—

(5) その他

支援内容	支援先	支援期間等
災害義援金の受付	被災 県	1/5 ～ 12/27
（公財）長野県みらい基金 被災地でのボランティア活動、被災地への支援を コーディネートする活動等への緊急助成	主たる事務所等の所在地が 県内にある N P O ・ ボラ ンティア団体等の非営利団体	（申請受付期間） 1/29 ～ 2/20

中部9県1市災害時等応援協定に かかる連絡会議

令和6年3月15日

石川県における復旧・復興に向けた対応

中部9県1市からの応援状況について

現 状

- 総務省の**応急対策職員派遣制度**に基づき、県内14市町に54都道府県・政令市から約1,000人/日、うち**中部9県1市から約320人/日の応援職員が活動中**
→総括支援チーム：災害マネジメント支援、対口支援チーム：避難所運営、罹災証明書交付事務など
- **全国知事会等を通じた要請**に基づき、45都道府県から約120人、うち**中部9県1市から9人の応援職員が派遣**
→1. 5次避難所の運営、災害救助法業務、仮設住宅建設に係る各種事務など
- **災害時応援協定**などにより、**給水活動や上水道の応急復旧、災害廃棄物処理**などへの**応援職員のほか、緊急消防援助隊やDMATなどの実動機関も派遣**

課 題

- **断水**について、3月末には概ね復旧する見込みであるが、**一部地域では4月以降の見込み**
- **避難所生活の長期化**が見込まれているほか、住家被害認定について、迅速に1次調査を進めたが、多くの住家被害が発生したことなどから、**2次調査が多数発生することが想定**
- 4月以降は、**各種支援制度や公費解体などの申請が本格化する見込み**

中部9県1市をはじめ**全国の自治体から中長期の応援職員を約300人派遣予定**

中部9県1市の災害時応援協定も踏まえ検討頂きたい事項

- 応急対策業務の長期化に対応するため、**応急対策職員派遣制度による支援の継続**
- 中長期的な応援職員についても被災地の速やかな復旧に向けて、特に**土木職員の確保**

石川県における復旧・復興に向けた対応方針

理 念

- 必ず能登へ戻す
- 単なる復旧にとどめず、人口減少など課題を解決しつつ、能登ブランドをより一層高める「**創造的復興**」を目指す

原 則

- 被災地の住民・事業者の声を聞く
- 若い世代の力の活用
- 人口減少などこれまでの課題の解決
- 民間・外部の力の活用

創造的復興 6つの柱

1. インフラの早期復旧・強靱化
2. 農林水産業、伝統産業、観光産業など能登の特色ある生業(なりわい)の再建
3. 暮らしと地域コミュニティの再建
4. 危機管理、安全・安心の充実
5. 今回の地震の教訓を踏まえた災害に強い地域づくり
6. 能登ブランド強化に向けた創造的復興リーディングプロジェクトの創出

※令和6年2月1日(木)：石川県令和6年能登半島地震復旧・復興本部会議を設置

※令和6年3月7日(木)：石川県令和6年能登半島地震復旧・復興アドバイザリーボードを設置

→3月中に復興プランの骨子案を作成

令和6年能登半島地震に係る災害ボランティア等の活動状況について

令和6年3月18日現在
長野県社会福祉協議会

1 災害支援団体の活動状況

信州災害支援テクニカルチーム（長野県社協と協定締結した団体）が発災後、初期から活動中。【日本笑顔プロジェクト、災害NGO結、災害救援NGOヒューマンシールド神戸】



左 笑顔プロジェクトの重機
（同団体HPから）
右 住民の依頼で貴重な木皿
を探し出す（ヒューマンシールド
神戸HPから）

2 長野県社会福祉協議会のボランティア活動支援

- 災害ボランティアセンター運営支援等のため能登地方に職員を派遣
（1/3から先遣派遣、1月中旬から2～5名体制）
- 「あったかいご用品応援プロジェクト」によるおむつ等物資支援（1/5、1/15、1/26）
- 大規模災害ボランティア活動助成事業を活用したボランティア団体の活動支援、他の助成金の紹介（5名以下の場合）、現地とのコーディネート等

(1) 奥能登入浴支援プロジェクト

- （幹事：県介護福祉士会、現地調整：災害NGO結、活動場所：輪島市、七尾市、能登町）
- ・ 入浴車による入浴支援 4～5人×2日間×3回派遣（2/2・3、2/9・10、2/16・17）
 - ・ 温泉の提供（山ノ内町社協、福祉施設の浴槽等へ温泉を供給 1/26から計6回）
 - ・ 入浴車の貸出（辰野町1台、松川村社協1台→災害NGO結が現地で貸出活用）



左：各家庭に入浴
車で湯を供給
中：1か月ぶりの
入浴を支援
右：福祉施設に山
ノ内の温泉車到着

(2) 団体ボランティアの活動状況（例示）



左：飯田ボランティア
協会、穴水町（2/26-28）
右：御代田町ボラバス、
能登町（3/9・10）



左：小川村有志の炊き出し（穴水町、1/21）
 右：池田町社協・同町災害ボランティア団体（能登町、1/24 ほか）

3 ボランティアバス運行支援（県民本部構成団体と共同した取組）

- 長野県内社協D S A T（災害V C運営支援者）が、能登町災害V Cの運営を支援中。県内からのボラバスを平日を中心に募集し、長野県社協で日程調整。

【現在決定している団体等】

活動日	実施団体（人数）
3/9～10	御代田町社協
3/13～14	岡谷市社協
3/15	木曾町社協
3/19	諏訪市社協・諏訪市防災市民ネット
3/20	須坂市社協・チームながでん
3/21	飯田市社協
3/26	須坂市社協・チームながでん
3/27	富士見町社協
4/2～3	長野市社協・災害ボランティア委員会
4/12	茅野市社協、下諏訪町社協
4/16	山形村社協
4/17	安曇野市社協
4/18～19	中野市社協
4/19	豊丘村社協

- 災害ボランティア用軽トラ提供
 - ・長野県「復興支援県民本部」から 能登町社協へ6台、輪島市社協へ4台
 - ・その他、福祉施設から1台、民間事業者から1台を能登町社協へ提供中。
- 被災地の宿泊支援プロジェクト
 - ・能登町春蘭の里（旧小学校校舎を活用した宿泊所こぶしと農家民宿群）支援者の宿泊受入れ再開を支援。長野からのボラバスの宿泊拠点に。
 - ・ここを拠点に、連合長野等が3月末頃から、継続してボランティア派遣を予定（現在は宿泊所こぶしのみ使用）

【参考】

「長野県大規模災害ボランティア活動応援事業」（1/4 能登半島地震を指定）

対象：5人以上の団体、グループで行う被災者支援活動

助成額：1団体上限20万円

申込窓口：長野県社会福祉協議会

主な留意事項：出発前に長野県社会福祉協議会への申込が必要

信州から能登へ ボランティアの力を！

長野県社協 まちづくりボランティアセンター 電話 026-226-1882 vcenter@nsyakyo.or.jp

■ 被災地の復旧のため、ボランティアの力が求められています。

・ 個人でのボランティア参加

⇒ 石川県ホームページから、ボランティア登録してください。

・ 福祉・介護、炊出し、大工仕事など技術をお持ちの団体ボランティア

⇒ 様々な技術や資格を活かした活動を希望する団体は、長野県社協までお問合せください。



飯田ボランティア協会、穴水町

■ 石川県能登町への「ボラバス」の企画を募集しています！

お近くの市町村社協にご相談ください。

能登地域では、道路事情やボランティア受入体制の制約から、町民限定の募集となっています。しかし、能登町では、長野県 DWAT が活動中であることや、長野県内社会福祉協議会職員が災害ボランティアセンターを支援しているご縁から、長野県内からのボラバスを積極的に受入調整できるようになりました。

活動場所：石川県能登町

企画方法：ボラバスの企画主体は、市町村社協、ボランティア団体、有志グループなど問いません。

活動日：ボランティアが少ない、平日（月～金）の応援を特にお願いします。

予約方法：お住いの市町村社会福祉協議会にご相談ください。市町村社協と県社協が連携して、現地の受入状況をふまえて日程調整を行います。

募集人数：当面、1日5名～20名程度で計画してください。

※マイクロバス、ロングバン等、軽トラ随行は大歓迎

助成金：「長野県大規模災害ボランティア活動応援助成」の対象となります。（旅費、宿泊費等）

■ 能登地域での宿泊のご案内



○ 能登町宮地の「春蘭の里」(交流宿泊所こぶし+農家民宿群)に宿泊することで、地域の復興を応援してください。

素泊まり 4,400 円から

○ 能登町災害VCまで車で25分。輪島市VCまで約 40 分、珠洲市VCまで約 50 分

○ お問合せは、名鉄観光長野営業所(026-244-8557、原様)
mail : noto-syukuhaku@mwt.co.jp

連合長野 先遣報告

訪問日 2024年3月11日～13日

訪問先 石川県鳳珠郡能登町

3月4日(月)

- 9:00 県社協にて打ち合わせ
- 15:30 能登町「春蘭の里（こぶし）」到着
多田喜一郎さんから建物や周辺の状況をお聞きする
- 18:00 夕食

3月5日(火)

- 7:00 朝食
- 9:00 能登町「春蘭の里（こぶし）」発
- 10:00 能登町社会福祉協議会（ボランティアセンター）着
県社協の山崎さんから、ボランティア活動の状況をお聞きする
九十九湾の県社協派遣の福祉チーム橋本さんに挨拶
宇出津のサテライトで県社協派遣の林さんに挨拶
ボランティアセンターでの活動を確認
柳田のサテライト（笹ゆり荘）を訪問
社協の中国ブロック派遣の広島市社協のお二人と挨拶
七見健康福祉の郷「なごみ」、鶴川の菅原神社 視察
- 17:00 ZOOMで連合長野と打ち合わせと現状報告
- 18:00 夕食

3月6日(水)

- 7:00 朝食
- 10:00 多田さんと連合長野が派遣をした時の打ち合わせ
(県社協 山崎さんと生協連 中谷さん同席)
- 12:00 能登町「春蘭の里（こぶし）」発
- 14:00 連合石川 着 挨拶
- 17:30 連合長野 着



能登町全図



春蘭の里「こぶし」(旧宮地小学校)



「こぶし」の1階ロビー
(1泊1名 4,000円)



「こぶし」の2階教室を半分にした宿泊室
(1泊1名 6,050円)

能登半島地震

連合長野救援ボランティア
活動のてびき

【Ver.1】

2024年3月21日版
連合長野 ボランティア派遣チーム

組織名

氏名

はじめに

連合の救援ボランティア活動へのご協力に、心より感謝申し上げます。

私たちの役割は、全国の労働組合員の代表として被災地に入り、被災したすべての人々の救援と復旧・復興に向けたお手伝いをすることです。現地で安全・円滑なボランティア活動が行えるようにするため、留意して頂きたいことをまとめました。実際の活動に入る前に必ず目を通して頂くようお願いいたします。

現地は地震によって甚大な被害が発生した地域であり、日常と異なる場面に遭遇することや、必ずしも物事が予定通りに進まないといったことも考えられます。このことを踏まえつつ、私たちには、被災地・被災者にとって何が必要かを考え、冷静かつ着実に目的を果たしていくことが求められます。

様々な産業・職場で働く者が結集する私たち連合が、全国の仲間の団結と連帯の力を活かし、それぞれの立場で被災地の方々を支えることが、復旧・復興に向けた次の一歩につながります。国難とも言える状況をすべての働く者・国民の力で乗り越えていくため、お互いに力を出し合っていきましょう！

連合長野

目 次

I. 活動先とベースキャンプ先	3
II. 活動内容	3
III. 活動の心がまえ	4
IV. 現地活動での注意点	5
V. 準備品リスト	6
VI. 病気・ケガの予防	7
●参考資料	8

I. 活動先とベースキャンプ先

石川県鳳珠郡能登町 旧能都町地区または旧柳田村地区
住 所 石川県鳳珠郡能登町宮地（民宿）

II. 活動内容

現時点では、がれきの片付けが中心となります。今後、ニーズの変化がよそうされます。

III. スケジュール

	集 合 9:30・出発式	ボランティア活動 9:00~16:00	解 散 15:00頃	備 考
第1陣	4月8日（月）	4月9日（火）～12日（木） 【3日間】	4月8日（月）	
第2陣	4月15日（月）	4月16日（火）～18日（木） 【3日間】	4月15日（月）	
第3陣	4月22日（月）	4月23日（火）～26日（木） 【3日間】	4月22日（月）	

Ⅲ. 活動の心がまえ

連合ボランティア・3つの原則

○被災地・被災者に迷惑をかけない

○現地の指示に従う

○安全確保

6つの「すること・しないこと」

- **自己完結すること**：現地の作業に必要な基本的な装備は連合で用意するので、その他の服装・携行品を必要に応じて持参し、現地購入は必要最小限にすること（保険等は各構成組織で加入）。貴重品の管理にも注意する（準備品についてはP6参照）
- **被災者への気遣いを忘れないこと**：あいさつ、言葉づかいなど、被災者の心情やプライバシーに配慮すること。組織内の被災者を優先することなく、連合の代表として、すべての被災者に公平に対応すること。
- **「思い込み」を捨てること**：自分の価値観を相手に押しつせず、相手（被災者・他のボランティア）のニーズを見極めて行動すること。
- **集団行動のルールを守ること**：問題が発生した場合は、自分勝手に判断せず、仲間同士で相談するか、現地対策本部の指示を仰ぐこと。
- **無理をしないこと**：休息、睡眠はしっかり取り、疲労を蓄積しないようにする。体の不調を感じたら、無理をせず活動を休止・中止すること。
- **抱え込まないこと**：一人で仕事を抱え込まない。被災者から個別に依頼された場合は、安請け合いがかえって仇とならないよう、現地対策本部と連携して対応すること。専門知識が必要な場合は、その道のプロに任せる。

ボランティア活動には、通常の作業における身体の消耗に加え、精神的にも消耗することがあるかもしれません。活動に参加する際には心身ともに健康な状態で参加することが重要となります。困った事があれば、仲間や責任者にご相談いただくことが基本ですが、直接言えない悩みなどがあった場合は下記へご連絡ください。

● 連合長野災害対策本部（ボランティア派遣チーム）

電話相談窓口 TEL 026-234-1626（連合長野）

IV. 現地活動での注意点

1. 作業開始前

- グループ内の人数がそろっているか確認する。
- メンバーの健康状態を確認する。体調不良の場合は無理をしない・させない。
- 現地対策本部から支給・貸与された物品を確認する。

2. 作業中

- 事故防止のため、安全用具は原則必ず着用する（ガラス・クギ等の突起物に注意）。相互に声かけ等による安全確認に留意する。
- 長時間連続して作業しない。一定時間ごとの目安を決めて休憩をとる（気温・作業強度に応じて、連続作業時間を調整する）。
- 各人が共同で活動することに留意し、作業場所の整理・整頓に努める（とくに屋内作業）。ショベル等の器材を使用する際は、自分と周囲のケガに注意する。
- 雨や地震等に関する情報に注意し、警報・注意報が発令された場合はすみやかに避難する（事前に避難場所を確認すること。ラジオで常時情報を得るようにしておく）。

3. 休憩中

- あらかじめ指定された場所で休憩を取る。休憩場所も整理・整頓を。
- 食事前の手洗い・消毒、炎天下に食事・飲みかけの水を放置しないなど、食中毒予防に努める。水分はこまめに摂り、熱中症・脱水症にならないよう気をつける。
- トイレは決められた場所を利用する。現場にトイレが必ずあるとは限らない場合もあるので、早めにトイレに行くことが望ましい。
- 喫煙は現場の指示に従い、火の始末に十分気をつける。

4. 作業終了後

- グループ内の人数がそろっているか確認する。
- ケガ・病気などが無いか確認する。「ヒヤリ・ハット事例」を報告・共有する。
- ごみは持ち帰りが原則。

5. 宿泊・滞在場所

- 整理・整頓、節電・節水に留意する。
- インフルエンザ・食中毒の予防に留意する（手洗い励行、咳エチケットなど）。
- 飲酒・喫煙は現地の指示に従い、他の参加者に迷惑をかけないように、節度を保つ。火の始末にも留意する。
- 雨や地震等に関する情報に注意する。

6. 帰任時

- 現地対策本部からの貸与品（ゴーグル等）は返却する（帽子等は持ち帰り可）。

※その他、現地対策本部の指示に従って行動して下さい※

VI. 準備品リスト

服装や携行品は、ボランティア活動の地域・時期・活動内容等によって異なります。ここでは基本的な物をご紹介します（現地の状況によって必要となるものは変わってきます。別に提供する現地情報とあわせて準備してください）。

★は現地で準備させていただいております。

	チェック	項目	備考
活動時の準備品（△はできれば用意）		リュックサック（行動用）	両手を自由に使える事。長靴を入れて移動あり
		衣服（作業着・着替え含む）	ケガ防止の為、長袖・長ズボン（半袖短パンは不向き）
		雨具（上下）	※通気性・透湿性に富むもの（ゴアテックス等）
		△防寒具（朝晩の気温差対策用）	ウィンドブレーカー、防寒下着など
		長靴	
		中敷き	鋭利な物を踏む場合があるので丈夫な物を推奨（JF国産品）
		履き替え用の靴・上履き	移動時に履き替えた方がよい。
		帽子	
	★	軍手	滑り止め付き・厚手の物
	★	ゴム手袋	泥書き出し用・厚手の物
	★	マスク	ほこり・臭い対策用（防塵マスクは連合で支給）
	★	ゴーグル	ほこり・粉塵対策用（防塵マスクは連合で支給）
	★	飲み物	水
		常備薬	各自必要なものを準備（絆創膏・胃腸薬・目薬など）
		ビニール袋	大・小各種適量（長靴、作業着を運ぶ際などに使用）
		メモ帳・筆記用具	記録時に必要
	携帯電話・携行充電器	活動地域により利用可能状況が異なることに留意	
	健康保険証のコピー		
	△運転免許証		
	△ボランティア保険証	個人加入の場合	
<p>■安全と連合ボランティア証明のため、参加者は必ず 連合帽子を着用する。 ■活動に必要な器材(ショベル等)は、現地本部にて対応します。</p>			
生活時の準備品		衣服（着替え）	寝巻含む
		洗面用具	歯ブラシ、石鹸等
		タオル	数枚、バスタオル等
		ポケットティッシュ	ウェットティッシュもあると便利
	★	寝具	ベースキャンプで対応

Ⅶ. 病気・ケガの予防

被災地の活動では、自分自身のみならず、他のボランティア参加者や被災地の方々の健康を確保するため、ケガや病気の発症を未然に防ぐことが重要です。被災地はガレキなどからほこりが舞いやすい環境です。こうした環境に留意して対策を考えておく必要があります。

【熱中症】 気温や湿度の上昇とともに熱中症のリスクも高まります。とくに、ボランティア活動の中では、作業着やマスクを着用することで高温多湿の環境となるため、より一層の注意が必要です。

- ☞ 体調がすぐれない場合は無理をせず休養する。活動中は通気・透湿性に富んだものを着用する。休憩をこまめに取る（できるだけ日陰や風通しの良い場所で）。水分・塩分補給を意識する。体調がおかしいと感じたら、直ちに作業を中止し、涼しく風通しの良い場所で体を冷やし、水分・塩分を補給する。意識がない、返事がおかしい、体に痛みがある場合は直ちに医療機関で処置を受ける。

【食中毒】 ノロウイルス、黄色ブドウ球菌などによる下痢、おう吐、発熱など。重症化すると生命にかかります。集団発生を防がなければなりません。

- ☞ こまめに手洗いを励行すること（とくに食事前やトイレ使用时）。炎天下に弁当や飲みかけの飲料を放置しない。時間が経った食べかけ・飲みかけの物は処分する。食品を調理する場合は、食材の加熱、まな板、包丁などの洗浄・消毒を励行すること。食中毒が疑われる症状が（腹痛、下痢、嘔吐）出た場合は、活動を中止し、医師の診察を受けること。

【外 傷】 がれきやガラスなどで切り傷を負ったり、クギを踏み抜いたりした場合、放置すると細菌感染による化膿、破傷風菌に感染する可能性があるので注意が必要です。また、強い日差しによるやけどにも注意してください。

- ☞ 作業時には、長袖など肌が露出しない服装、手袋着用、安全靴・安全中敷きを着用する。日焼け対策として日焼け止め、日焼け後の肌の冷却に留意する。外傷を負った場合は、すみやかに消毒し、医師の診察を受けること（傷が小さいからと油断しないこと）。※可能ならば破傷風の予防接種も検討（詳しくは医療機関へ問い合わせを）。

【インフルエンザ】 高熱、全身の倦怠感・痛みのほか、気管支炎や肺炎を併発することもあり、重症化すると生命にかかります。集団発生を防がなければなりません。

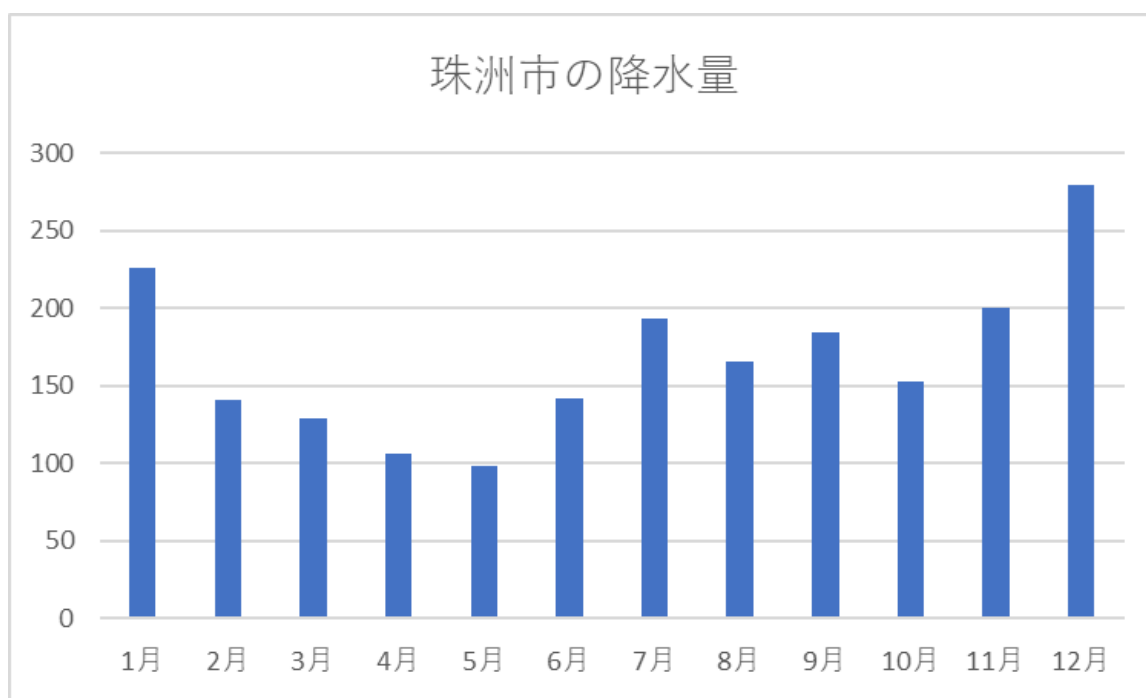
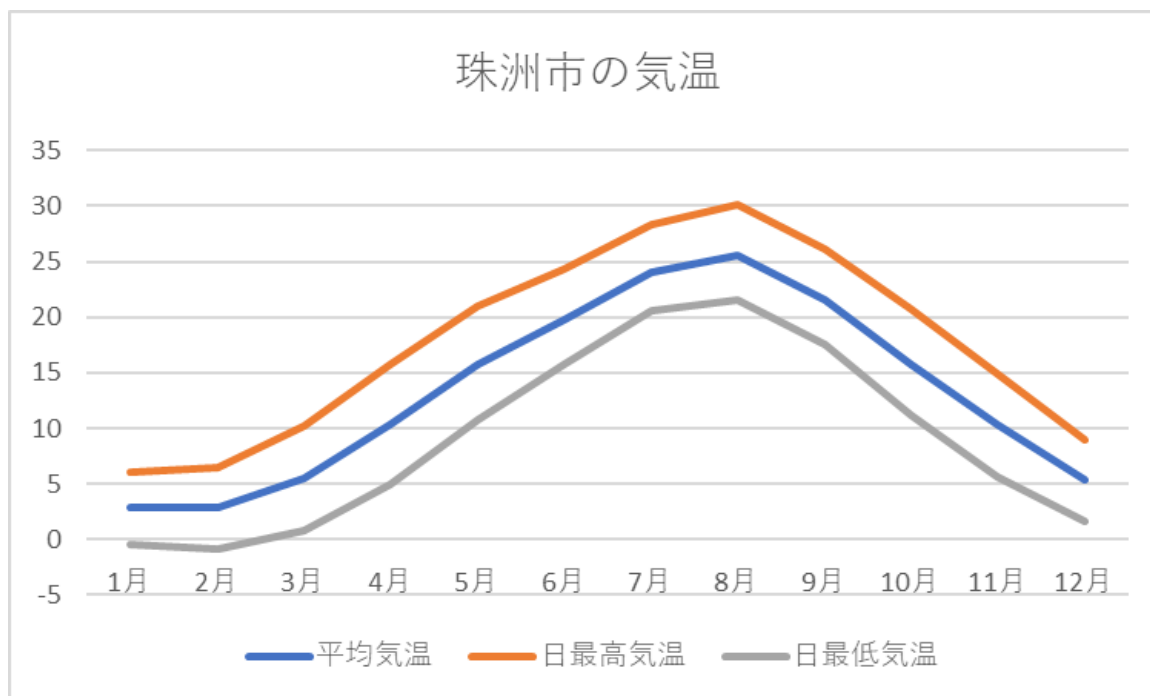
- ☞ 手洗い、うがい、マスク着用を励行すること。インフルエンザが疑われる症状が出た場合は、活動を中止し、医師の診察を受けること。

【低体温症】 体の中心部の体温が35度以下になると、体のふるえ、動きが鈍くなるなどの症状があらわれます。さらに体温が下がると、意識がもうろうとし、正常な判断ができなくなり、最悪の場合生命にかかわることもあります。

- ☞ 衣類が濡れないよう気をつけること。濡れた衣服を着たままにしないこと。カフェインを含む飲料（濃いお茶・コーヒー、ビール）はできれば避けたほうがよい。

＝参考資料＝

●石川県能登地方の気象データ（金沢地方気象台）



集合場所

長野出発時の集合場所

連合長野 事務局

(〒380-8545 長野市県町532-3 長野県労働会館3階)

※集合時刻

※現地までは

※緊急連絡先

調整中

月曜日

9:30 「労働会館」??? 集合（出発式）

9:45 「労働会館」??? 発

15:15 能登町宮地（宿泊施設） 着

18:00 夕食

就寝

火～木曜日

8:00 能登町宮地（宿泊施設） 発

8:45 能都サテライト 着

9:00 サテライト発・作業開始

16:00 サテライト戻り・作業報告

17:00 能登町宮地（宿泊施設） 着

18:00 夕食

就寝

金曜日

9:00 能登町宮地（宿泊施設） 発

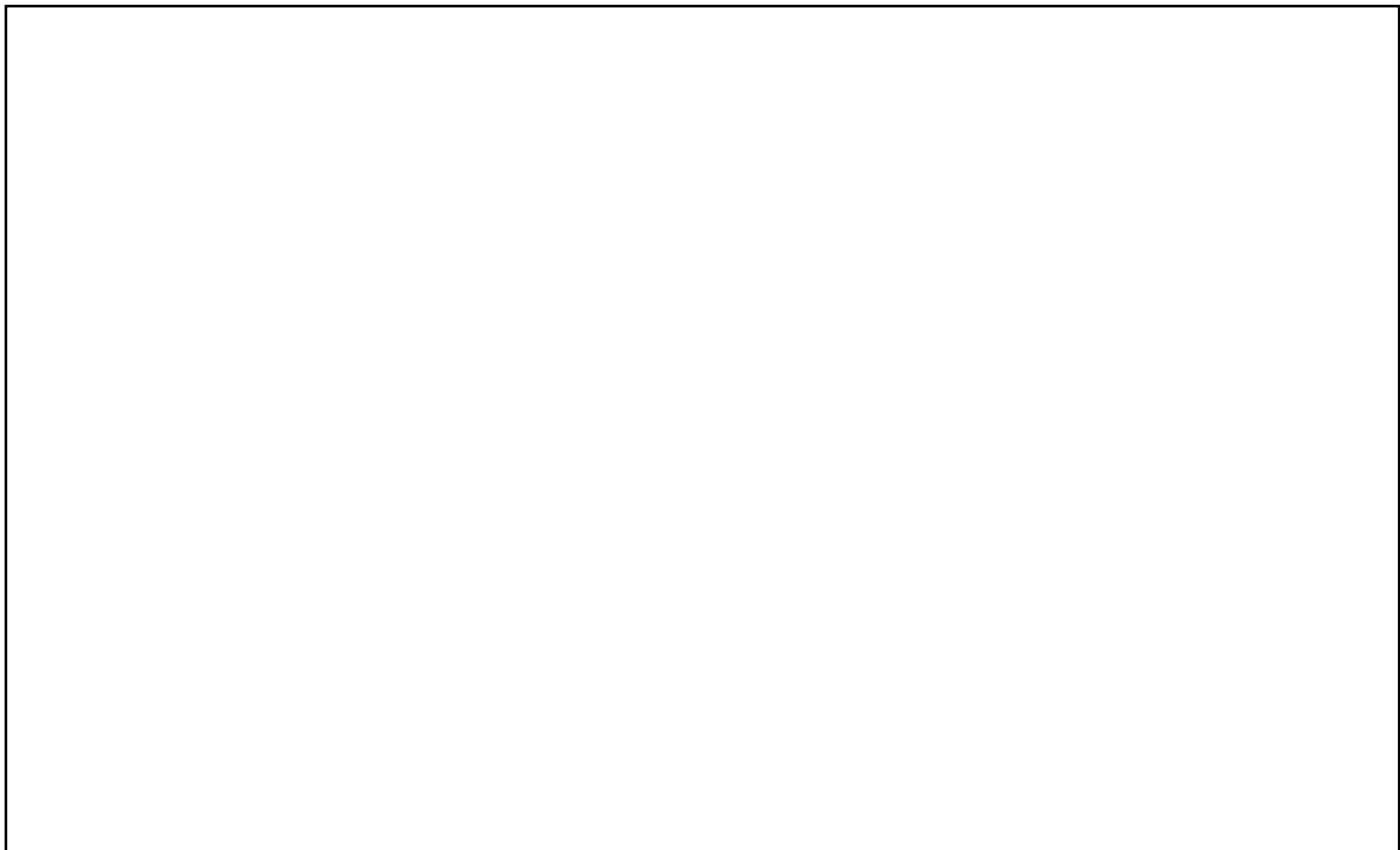
15:00 労働会館 着（解散）

連合長野救援ボランティア ベースキャンプ(B.C.)

- 「春蘭の里」の民宿（宿泊施設）

【どここの民宿になるか調整中】

〒927-0322 石川県鳳珠郡能登町宮地

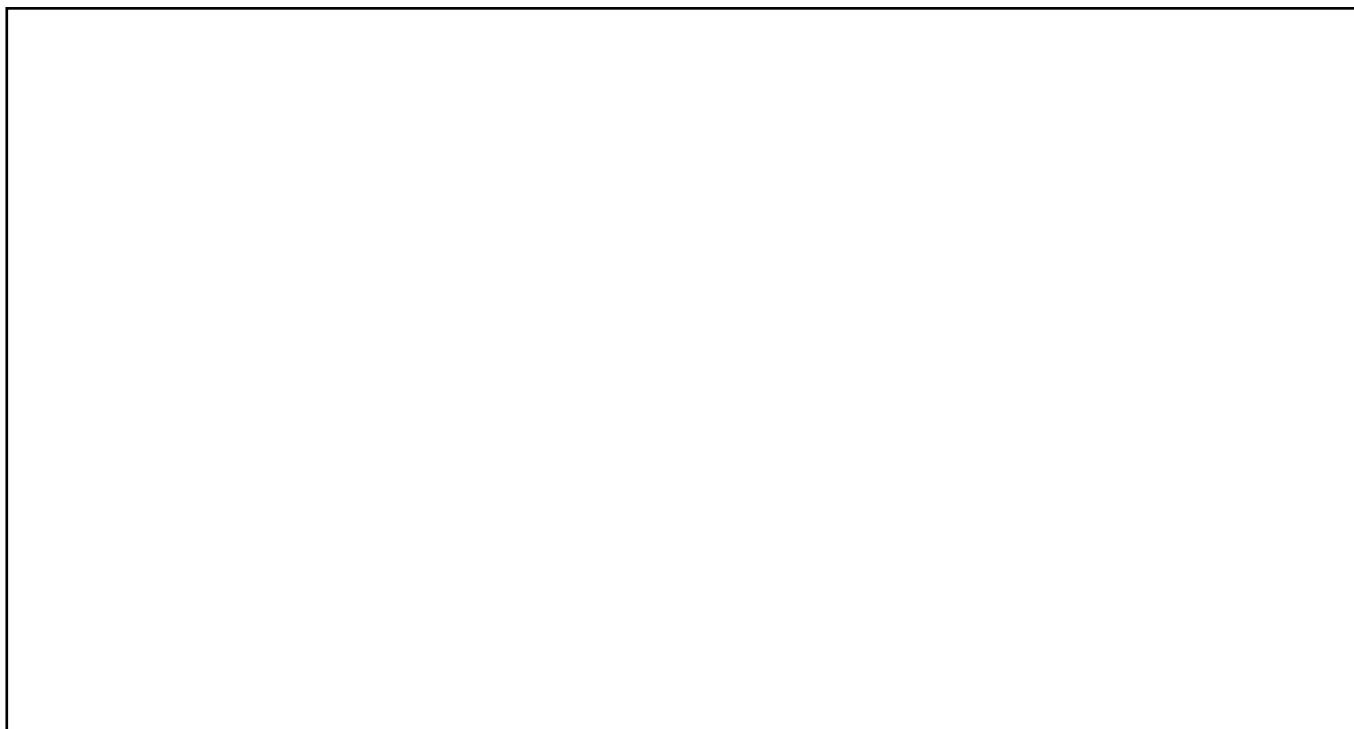


※宿泊施設には、電話連絡や荷物送付は不可。

※個人の荷物事前送付は難しい。

【参考】

<参考：宿泊先周辺図等>



《参 考》

食事準備

※「○」は連合本部にて手配。「×」は各自手配。

【全クール共通】

	集合日 (日)	活動日 (月)	活動日 (火)	活動日 (水)	活動日 (木)	活動日 (金)	解散日 (土)
朝食	×	○	○	○	○	○	○
昼食	×	○	○	○	○	○	×
夕食	○	×	×	×	×	○	×

Ⅲ. ボランティア活動全体スケジュール

	石川入り 16:00よりオリエンテーション	ボランティア活動 【第1～3クール】 7:00～17:30（移動含む） 活動予定時間 9:00～16:00 【第4～15クール】 8:30～16:30（移動含む） 活動予定時間：9:00～16:00	帰着日
第1 クール	3月24日（日）	3月25日（月）～ 3月29日（金）【5日間】	3月30日（土）
第2 クール	3月31日（日）	4月1日（月）～ 4月5日（金）【5日間】	4月6日（土）
第3 クール	4月7日（日）	4月8日（月）～ 4月12日（金）【5日間】	4月13日（土）
第4 クール	4月14日（日）	4月15日（月）～ 4月19日（金）【5日間】	4月20日（土）
第5 クール	4月21日（日）	4月22日（月）～ 4月26日（金）【5日間】	4月27日（土）
第6 クール	4月28日（日）	4月29日（月）～ 5月3日（金）【5日間】	5月4日（土）
第7 クール	5月5日（日）	5月6日（月）～ 5月10日（金）【5日間】	5月11日（土）
第8 クール	5月12日（日）	5月13日（月）～ 5月17日（金）【5日間】	5月18日（土）
第9 クール	5月19日（日）	5月20日（月）～ 5月24日（金）【5日間】	5月25日（土）
第10 クール	5月26日（日）	5月27日（月）～ 5月31日（金）【5日間】	6月1日（土）
第11 クール	6月2日（日）	6月3日（月）～ 6月7日（金）【5日間】	6月8日（土）
第12 クール	6月9日（日）	6月10日（月）～ 6月14日（金）【5日間】	6月15日（土）

第13 クール	6月16日(日)	6月17日(月)～ 6月21日(金)【5日間】	6月22日(土)
第14 クール	6月23日(日)	6月24日(月)～ 6月28日(金)【5日間】	6月29日(土)
第15 クール	6月30日(日)	7月1日(月)～ 7月5日(金)【5日間】	7月6日(土)

※最終日(金曜日)に総括会議を実施(ホテル帰着後)。

Ⅲ. 活動先と1日の流れ

1. 活動先：

- (1) 第4～7 (4/14～5/11) クール：石川県七尾市
- (2) 第8～15 (5/12～7/6) クール：石川県七尾市または志賀町

2. ボランティア団規模：

- (1) 第4～7 (4/14～5/11) クール：20名程度
- (2) 第8～15 (5/12～7/6) クール：40名程度

2024.3.21 第2回能登半島地震復興支援県民本部会議

非営利活動法人 長野県NPOセンター
(長野県災害時支援ネットワーク事務局)

被災状況（令和6年3月5日14時時点）



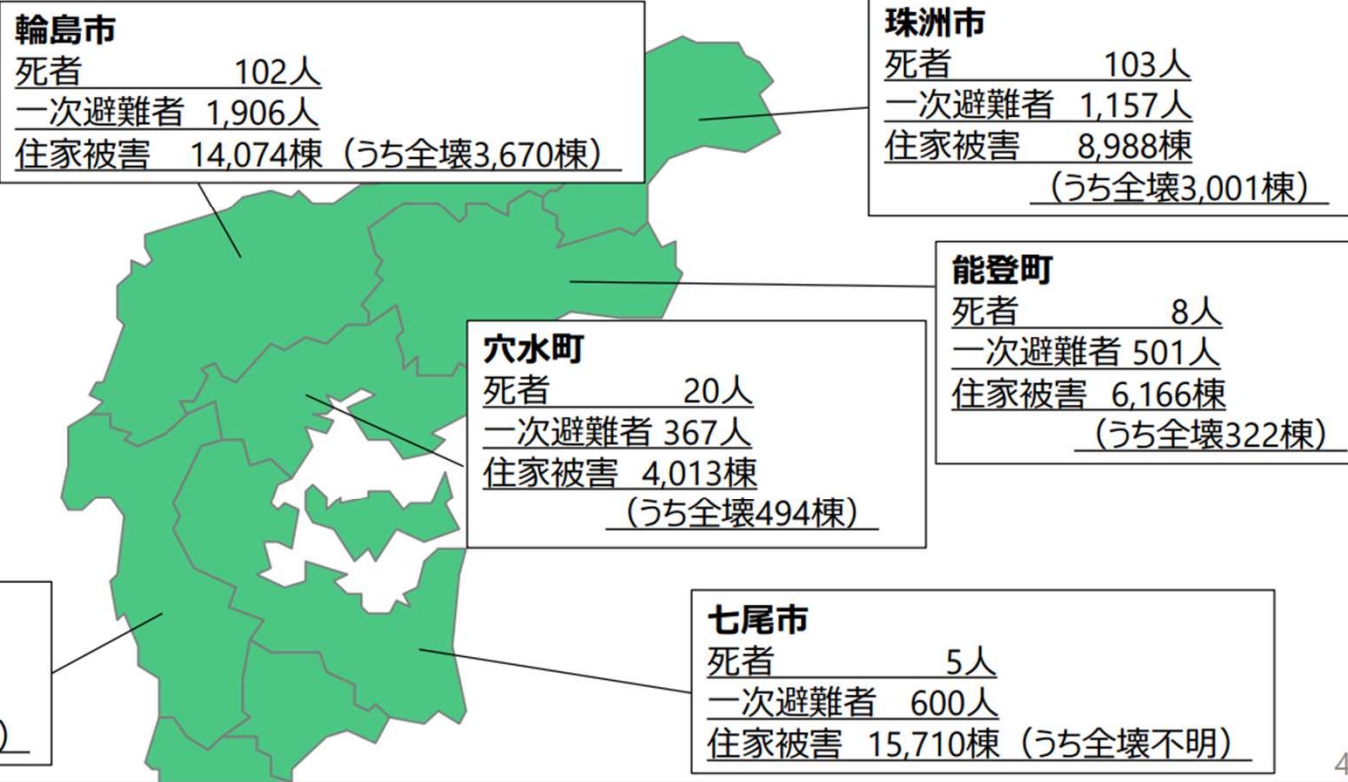
○避難者の状況

【最大】約34,000人 → 【現在】約10,400人

1次避難所：約5,100人
 1.5次避難所：約120人（スポセン、産展）
 2次避難所：約4,400人（ホテル、旅館等）
 広域避難所：約800人

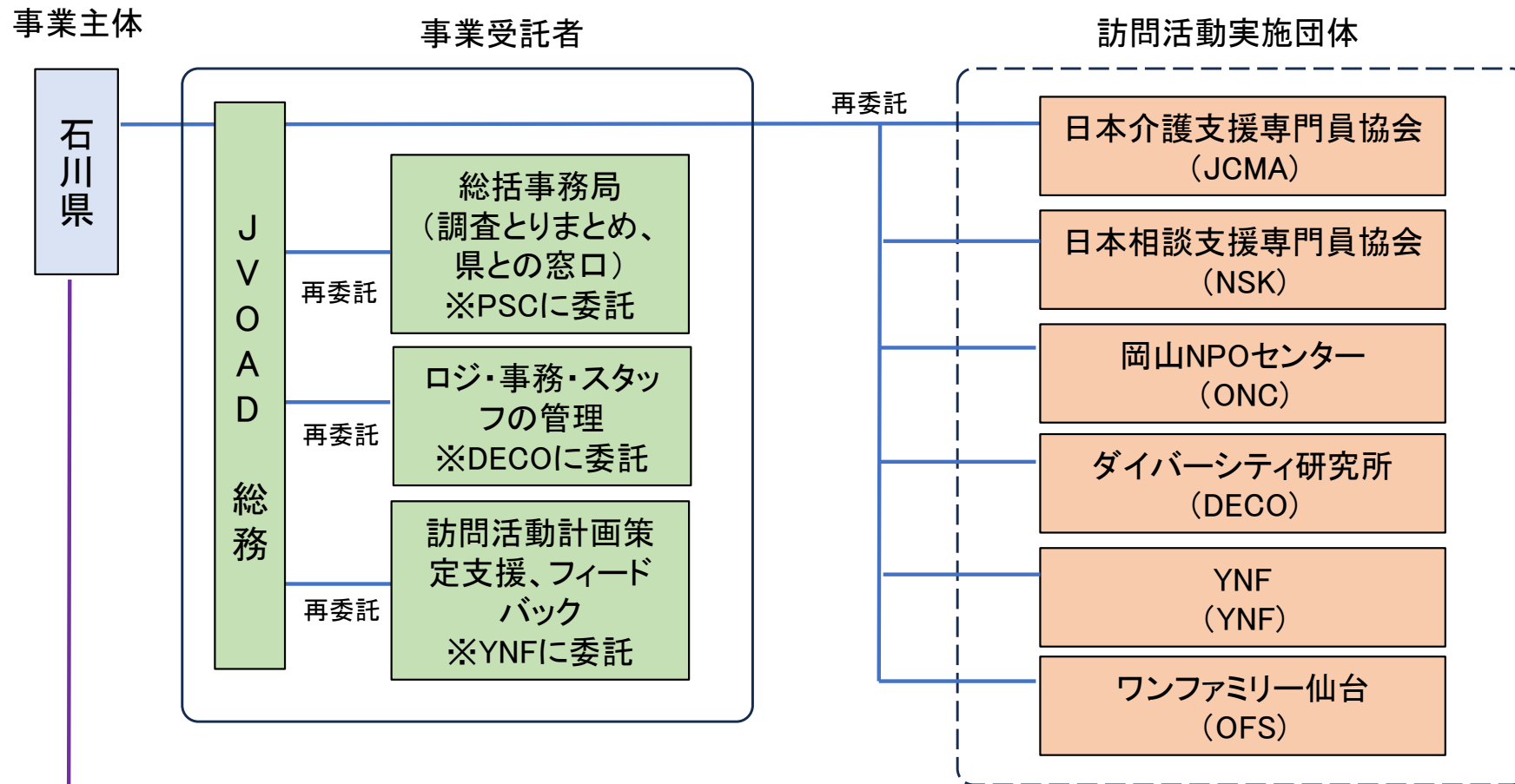
＜基礎情報＞ 出典：令和2年国勢調査

	人口 (人)	高齢化率 (%)	一般世帯数 (世帯)
輪島市	24,608	46.0	10,172
珠洲市	12,929	51.6	5,490
穴水町	7,890	49.1	3,267
能登町	15,687	50.4	6,423
七尾市	50,300	38.5	20,253
志賀町	18,630	44.6	7,427



※第1回石川県令和6年能登半島地震復旧・復興アドバイザリーボード会議資料（R6.3.7）より一部抜粋

石川県における官民連携の取組:在宅避難者の把握



○在宅避難者の把握(「誰も取り残さない被災者サポートプロジェクト」)

※被災高齢者等把握事業として実施

地震、台風及び豪雨等の自然災害における被災者の孤立防止等のため、被災生活により状態の悪化が懸念される在宅高齢者等に対して、個別訪問等による早期の状態把握、必要な支援の提供へのつなぎ等、支援の届かない被災者をつくらぬ取組を一定期間、集中的に実施することを目的とする。
 ※被災生活により状態の悪化が懸念される在宅高齢者等に対し、支援の届かない被災者をつくらぬことを目的として、災害の発生より概ね3か月以内の間で集中的に行う事業。

○実施主体

災害救助法の適用を受けた都道府県、指定都市、中核市及び市町村 ※民間団体(介護支援専門員等の職能団体等)へ委託可

○補助率

- ①特定非常災害の指定がある場合 10/10
- ②上記以外の場合 1/2



未来型災害支援ターミナル完了報告 (エピセンター オブ ライオンズ)

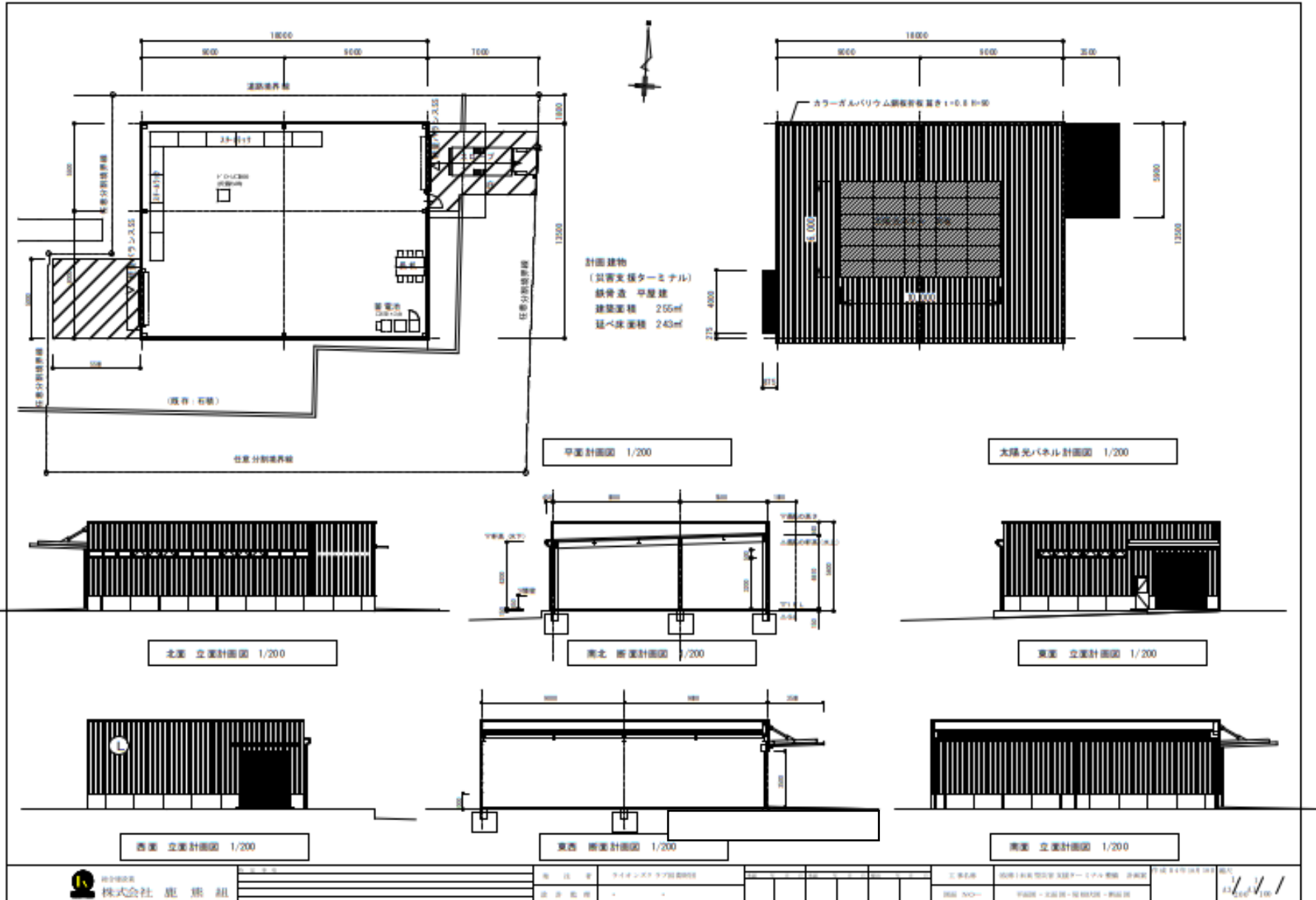
2023年8月1日

一般社団法人日本ライオンズ
台風19号復興支援LCIF事業委員長 L.仁科良三

建屋完成

- 2023年6月22日建屋に設置されたソーラーパネルで発電した電気を蓄電し、建物全ての電源を確保する「完全自動消費型」の「未来型災害支援ターミナル」が完成。
- ライオンズクラブサイドの一級建築士による竣工検査を実施 全て設計書通りに施工されていることを確認。
- 同日15：30～長野市への引き渡し完了。

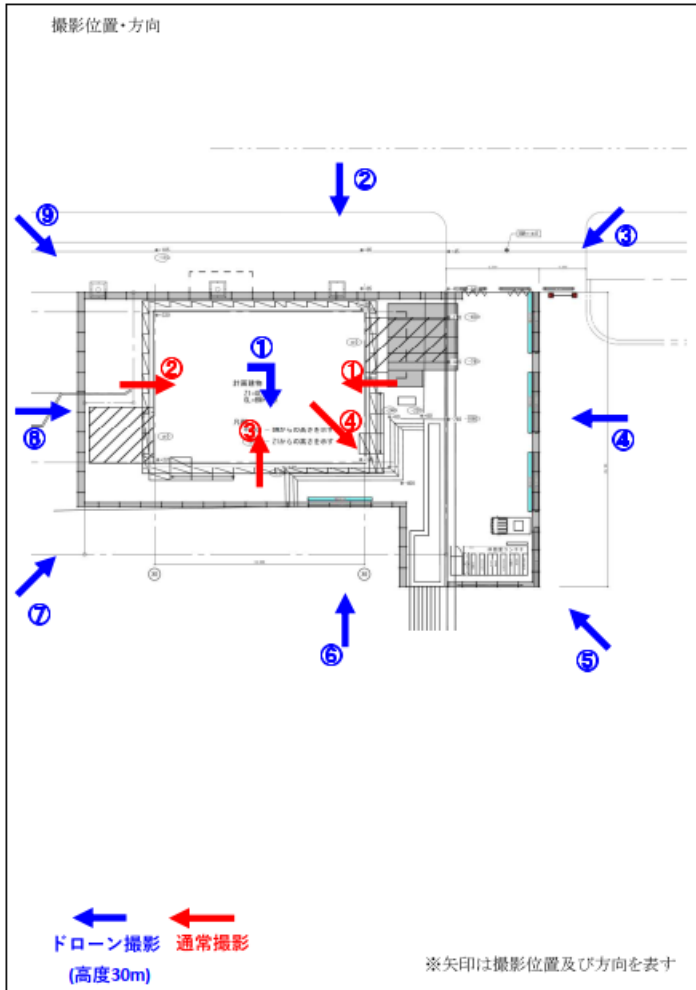




別紙4(A4版)

工事写真報告書

撮影日(ドローン) 令和 5年 6月 19日
 撮影日(内 部) 令和 5年 6月 16日



2-41

別紙5(A4版)

工事完了写真



33

4

別紙5(A4版)

工事完了写真

撮影位置 ③ 撮影内容(部位) 北面 全景



撮影位置 ④ 撮影内容(部位) 蓄電池 全景



別紙5(A4版)

工事完了写真

撮影位置 ① 撮影内容(部位) 直上面(ドローン撮影)



撮影位置 ② 撮影内容(部位) 北面(ドローン撮影)



別紙5(A4版)

工事完了写真

撮影位置 ③ 撮影内容(部位) 北東面(ドローン撮影)



撮影位置 ④ 撮影内容(部位) 東面(ドローン撮影)



別紙5(A4版)

工事完了写真

撮影位置 ⑤ 撮影内容(部位) 南東面(ドローン撮影)



撮影位置 ⑥ 撮影内容(部位) 南面(ドローン撮影)



別紙5(A4版)

工 事 完 了 写 真

撮影位置 ⑦ 撮影内容(部位) 南西面(ドローン撮影)



撮影位置 ⑧ 撮影内容(部位) 西面(ドローン撮影)



別紙5(A4版)

工 事 完 了 写 真

撮影位置 ⑨ 撮影内容(部位) 北西面(ドローン撮影)



輸送ドローン



PRポイント

- ・吊り荷式を採用
荷ズレの心配が無く、
重量物運搬に適する。
- ・傾斜地での荷下ろしが可能。
活用シーンの広範化

機体仕様一覧

機体仕様	輸送ドローン
品名	EAGLE ライオンズクラブ仕様
形式	ヘキサタイプ
全長	2,800mm(プロペラ含む)
全幅	2,800mm(プロペラ含む)
全高	800mm
機体重量	20kg
最大離陸重量	55kg
最大ペイロード	20kg
バッテリー	インテリジェントバッテリー28000mah×2本
衛星測位システム	GNSS(GPS/QZSS, GLONASS, Galileo, Bei Dou)
テレメトリー	920MHz or 2.4ghz
最高速度	約35km/h(9.7m/s)
耐風性能	13m/s
最高到達高度	149m
防塵・防水性能	IPX3相当
フライト時間	15分(ペイロード20kgホバリング時)
使用プロペラ	30インチ
操縦用無線機	FUTABA 16i
画像伝送装置	AMIMON CONNEX INDUSTRIAL

予定していた仕様から変更の際には事前にご連絡致します。

偵察ドローン



PRポイント

耐環境性に優れた災害特化型のドローン
4つのカメラを使い分けることで
現場での情報収集能力に長ける。

- ・広角カメラ
- ・ズームカメラ
- ・サーマルカメラ
- ・レーザー距離計

※カメラ詳細情報は下記の通り

必要なデータを全て取得

M30シリーズは、広角カメラ、ズームカメラ、サーマルカメラ(M30Tのみ)、レーザー距離計を搭載。これらを使用し、いつでも必要なデータを取得することができます。

● 広角カメラ

焦点距離(35mm相当): 24mm
FOV(対角視野): 84°
12MP, 1/2インチCMOSセンサー
動画解像度: 4K/30fps

● ズームカメラ

48MP 1/2インチCMOSセンサー
5倍～16倍光学ズーム
最大200倍ハイブリッドズーム
静止画解像度: 8K
動画解像度: 4K/30fps

● サーマルカメラ

焦点距離(35mm相当): 40mm
解像度: 640×512
フレームレート: 30fps
測定精度: ±2℃または±2%*

● レーザー距離計

範囲: 3m～1200m
精度: ±(0.2m+D×0.15%)**

** ±2℃以内、真打ち位置を指す。
** ±0.2m、レーザー距離計の測定範囲の精度範囲を示しています。

機体仕様一覧

機体仕様	偵察ドローン
品名	マトリス 30T
形式	クワッドコプター
全長	470mm(プロペラ含まず)
全幅	585mm(プロペラ含まず)
全高	215mm(プロペラ含まず)
機体重量	3.7kg(バッテリー2個、1.4kgを含む)
最大離陸重量	3.7kg(バッテリー2個、1.4kgを含む)
最大ペイロード	0kg
バッテリー	LiPo 5880mah×2本
衛星測位システム	GPS,Galileo, GLONASS,, Bei Dou
テレメトリー	2.4ghz
最高速度	約80km/h (23 m/s)
耐風性能	15m/s
最高到達高度	149m(無届時航空法許容最高高度)
防塵・防水性能	IP55相当
フライト時間	41min
使用プロペラ	PART09-1671 プロペラ
操縦用無線機	DJI RC Plus
画像伝送装置	DJI RC Plus
※予定していた仕様から変更の際には事前にご連絡致します。	



1台285,000円（税別）×3台

2160Whの大容量・合計2200Wの高出力モデル

ポータブル電源 2000 Proは2160Whの大容量と2200Wの高出力によって、コーヒーメーカーなどのアウトドア用電気製品はもちろん、ホットプレートから家庭用冷蔵庫まで、電池残量を気にすることなく使用可能です。

最大8つのデバイスに同時給電が可能のため、アウトドアでできることがさらに広がります。

家族やグループでのキャンプに加えて、車中泊や災害時の緊急電源としてもご利用いただけます。

品番	Jackery ポータブル電源 2000 Pro
型番	JE-2000A
サイズ&重量	約384x269x307.5mm (約19.5kg)
定格容量	リチウムイオン電池 50Ah/43.2V (2160Wh)
入力ポート	AC入力：100V - 50Hz/60Hz、最大15A DC入力ポート：11-17.5V（動作電圧）/8A、2ポート電流制限8A； 17.5-60V（動作電圧）/12A、2ポート電流制限24A、合計1400W
出力ポート	3 x AC出力：100V - 50Hz/60Hz、1ポート最大20A/2000W、 3ポート合計2200W（瞬間最大4400W） 2 x USB-A出力：Quick Charge 3.0、5-6V/3A、6-9V/2A、 9-12V/1.5A、各ポート最大18W 2 x USB-C出力：5V/3A、9V/3A、12V/3A、15V/3A、20V/5A、各ポート最大100W シガーソケット出力：12V/10A
付属品	AC充電ケーブル、車載用シガーアダプター、取扱説明書、保証書
認証	UN38.3、QC3.0
保管温度	-10℃～40℃（炎天下の車内で保管しないでください）
動作温度	-10℃～40℃
充電温度	0℃～40℃

アウトドア用電気製品



プロジェクター
(100W)
15時間



車載冷蔵庫
(60W)
120時間



ミキサー
(300W)
5時間



電気グリル鍋
(1600W)
1.1時間

家電製品



ドリル
(200W)
8.6時間



冷蔵庫
(520W)
75時間



エアコン
(1150W)
2時間



電子レンジ
(1160W)
96分

令和6年3月

令和6年能登半島地震による被災地商工会等への支援について

長野県商工会連合会

1 概要

能登半島地震による被災地商工会等を支援するため、全国商工会連合会が令和6年2月19日から各都道府県連を通じて商工会指導員等による派遣支援を実施している。

これまで第1次と第2次派遣が実施され、一週間単位で全国の商工会・県連から毎週10名前後の経営指導員等が派遣先の石川県内各商工会や支援センターで被災事業者支援を行っている。

なお、長野県連から以下のとおり3月末までに延べ6名を派遣する。

2 長野県連からの派遣職員および日程・場所等

No.		派遣日	部署（商工連）	氏名・職名	派遣先
1	第1次	2/19～2/22	南信支所	井口広域専門経営支援幹	門前町商工会
2	派遣	2/19～2/22	北信支所	佐野広域専門経営支援員	富来商工会
3	第2次	3/4～3/8	経営支援課	菊池課長補佐	能登事業者支援センター
4		3/11～3/15	東信支所	鳴澤支所長	能登事業者支援センター
5		3/18～3/22	南信支所	井口広域専門経営支援幹	能登事業者支援センター
6		3/25～3/29	経営支援課	青木課長	能登事業者支援センター

※4月からの第3次派遣以降も、全国連からの要請に応じて職員派遣を実施する予定

3 派遣先での業務

(1) 被災地商工会： 各商工会へ1名ずつ派遣。当該商工会職員と一緒に管内事業者からの電話・窓口相談対応をはじめ、巡回訪問にて支援策を案内・周知

(2) 事業者支援センター(※)： 県説明会による補助金制度の説明を受けた被災地事業者からの具体的な申請手続きのための問い合わせ・相談に対応

※能登事業者支援センターについて

概要： 地震で直接被災した商工会・商工会議所(特に珠洲市、輪島市、穴水町、能登町)管内の事業者の相談体制を強化するために石川県によって2/19に設置された(センター統括:石川県産業振興戦略監)

場所： 石川県奥能登総合事務所4階(輪島市:のと里山空港内)

設備： 相談ブース7か所、机、椅子、キャビネット、電話6台、PC、Wi-Fi、複合機、トイレ・水道・電気など完備

人員： 経産省、県、商工会議所、商工会から派遣された職員15名程度による混成チーム

時間： 平日10時～17時

4 支援内容

被災事業者からの相談内容のほとんどは今回創設された特例補助金(なりわい再建、持続化災害支援枠、伝統工芸など)に関してであり、制度創設の前と後で以下のとおり支援方法が異なる。

第1フェーズ(第1次)： 特例補助金の創設前。事前に公開されている制度情報をできるだけ収集・分析し、申込みに向けた準備をフォロー

第2フェーズ(第2次)： 補助金公募要領の発表後。マニュアルに従い書式説明や対象経費の見積もり、具体的な申請手続きをサポート

5 所感(今後の激甚災害発生へ備えるにあたって)

【商工会】 平常時から「なりわい再建補助金」や「持続化(災害支援枠)」の知識を高めておく

【行政】 いざという時迅速に事業者支援センター・地区拠点を設置する体制を検討しておく

【連携】 県内外から応援職員を受け入れる場合の宿泊場所や交通手段、機器等を想定しておく

6 現地写真 裏面参照

(裏面)



←被災した駅前商店街（穴水町）



←実際に相談を受けた和菓子屋（穴水町）
写真右奥の工場が倒壊し設備が下敷きに。建替え
補修等のため「なりわい再建補助金」を申請



←被災した穴水町商工会（現在閉館→移転営業中）
第2次では熊本県連職員等が派遣された



←1階が潰れてしまった呉服屋さんの店舗（門前町）



←能登事業者支援センターが設置された「のと里山
空港（輪島市）」



←能登事業者支援センター事務所内の様子

被災地支援 12 団体への助成を決定しました

R6 能登半島地震災害支援基金（第1期助成）

令和6年(2024年)1月1日に発生した能登半島地震において被災された皆さま、並びにそのご家族の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

長野県みらい基金では、長野県、日本労働組合連合会長野県連合会（連合長野）、（福）長野県社会福祉協議会、（福）長野県共同募金会と連携し、被災地で求められる緊急対応に加え、被災者の方々のその後の生活再建までを継続的に支援していくため、「令和6年能登半島地震災害支援基金」を立ち上げました。

本基金では第1期助成として、事業公募を1月29日から2月20日まで行い、次の12団体に対し、総額200万円の助成を決定しました。

● 助成団体と活動内容

支援分野	助成団体	所在地	
炊き出し等	5 団体	炊き出し支援チーム HundredHands	長野市
		レフヒオ ラパス	池田町
		親子で息抜きイタリアン	長野市
		松本市炊き出し隊みらい	松本市
		Japan Unite	上田市
入浴支援	3 団体	(福)塩尻市社会福祉協議会	塩尻市
		(福)山ノ内町社会福祉協議会	山ノ内町
		(公社)長野県介護福祉士会	長野市
重機ボランティア	2 団体	須坂龍神会	須坂市
		(特非)絆 JAPAN	原村
その他	2 団体	清水里山整備協議会 : 農家民宿再建・中間支援	安曇野市
		チームうるし : 生活再建・漆芸文化保全	佐久穂町

各事業の詳細は、公共的活動応援サイト「長野県みらいベース」をご覧ください。
<https://www.mirai-kikin.or.jp/crown-program/4769/>



第2期助成に向けた寄付のお願い

緊急救援や応急対応が一定収束する発災数か月後以降も、被災地の生活再建や能登半島を中心とする地域全体の復興を応援していくためには、継続したNPOやボランティアの活動が必要です。

第2期助成への温かいご寄付・ご協力をよろしくお願いいたします。

<https://www.mirai-kikin.or.jp/donation-program/4732/>

寄付総額（3月11日現在） 1,156,500円



公益財団法人 長野県みらい基金
 (理事長) 高橋 潤 (担当) 小松路子、上沼 薫
 <松本事務所>
 〒390-0852 松本市島立 1020 長野県松本合同庁舎2階
 電話 0263-50-5535 (内線 2814) FAX 0263-50-6561
 E-mail matsumoto@mirai-kikin.or.jp

「令和6年能登半島地震災害支援基金」連合長野・緊急助成(第1期助成) 助成団体・事業概要

番号	分野	市町村	団体名	助成決定額	事業概要
1_1	炊き出し等	長野市	炊き出し支援チーム HundredHands	172,000	健康管理・栄養管理の食支援を核に、心身の安寧を目的とした支援を実施する。台風19号災害で得た経験を活かし、行政や他団体と連携しつつ、自衛隊や行政の支援が行き届かない被災者に対して、栄養管理に基づく食支援や必要物資の提供を行う。 輪島市門前町・穴水町などで炊き出しで行い、1回あたり300～1,000食程度の食事を提供する。週1で1月10日から2月14日までの間に活動(以降もニーズに応じて継続中)。 被災地の声に耳を傾けながら、在宅避難者や車中泊避難者などのニーズに対応していく。
1_2		池田町	レフヒオ ラパス	172,000	避難生活が長期する奥能登地域(輪島市、珠洲市等)の避難所でキッチンカーによる炊き出しを行う。 1月後半から避難所で医療ボランティアを行った代表が現場で感じた被災者の不安や栄養の偏り等を踏まえ、避難所での炊き出しは栄養バランスを考えたらうどんやホットと一息できるおやき・肉まん等を計画する。食事を通じて避難者の心を温め、復興へのモチベーションにつなげたい。合わせて、生活必需品の寄付も行う。 3月2～8日には主に七尾市、輪島市での活動を計画する。(以降、連続5日程度の炊き出し支援を定期継続予定。)
1_3		長野市	親子で息抜きイタリアン	171,000	能登町・内灘町等において、野菜を多く取れるようにするなどの配慮をしつつ、炊き出しや物資支援を行う。ありきたりなメニューではなく、イタリアンをベースにバリエーション豊かな食事を朝・昼・晩と提供し、心も体も温まるような支援を行う。 2月1～6日は主に能登町で、2月19、20日は内灘町で炊き出し・物資支援を行う。(以降も月に数日の頻度で継続支援を予定。) 現地に拠点を持つ支援団体(熊本支援チーム・のとルネ・創生ななお)や現地行政と連携し、ニーズを把握して活動する。
1_4		松本市	松本市炊き出し隊みらい	171,000	断水や停電の影響を受けた輪島市七浦、門前町、七尾市中島地区で1月10日から週に1回(1泊2日または2泊3日)、炊き出し支援を行う。 水が出ないところでの洗い物、ごみ等を現地に出さない調理など、自己完結した炊き出し活動とする。笑顔や綺麗な花々を添えながら毎週食事を届けることで、避難所におけるコミュニティ作りにも貢献していく。 現地コーディネートの面でNGOシャンティ国際ボランティア会と連携し、みやこ町災害支援ボランティアとも協力して炊き出しを行う。
1_5		上田市	Japan Unite	152,000	被災者の心に寄り添い、先の見えない不安を軽くし、少しでも元気を与えられるような継続的支援を行う。 1月初旬から珠洲市で現場支援を続けているメンバーから情報を得て、現地では支援物資の配達、炊き出し、温泉足浴と足マッサージ、アロマによるリラックスタイムの提供、コーヒーブレイク、その他必要作業の手伝いなどを行う。 初回は4名程の少人数体制とし、2月20～22日にかけて活動する。道路状況を踏まえた経路検討や中継経由点として災害NGO結の支援を受け、また特殊支援部隊山へ支援物資を配達する。
2_1	入浴支援	塩尻市	社会福祉法人 塩尻市社会福祉協議会	172,000	能登地域では上下水道の復旧に時間を要するなか、入浴できない状況の高齢者や障がい者等を支援するため、県内の遊休入浴車を被災地に届ける。 1月末に辰野町社協から入浴車を借用し、塩尻市社協でメンテナンス・修理や必要備品の整備を行う。2月以降現地に入浴車を移送する。現地支援団体「災害NGO結」や長野県介護福祉士会の「能登入浴支援プロジェクト」に提供し、合わせて使用方法をレクチャーする。

「令和6年能登半島地震災害支援基金」連合長野・緊急助成(第1期助成) 助成団体・事業概要

番号	分野	市町村	団体名	助成決定額	事業概要
2_2	入浴支援	山ノ内町	社会福祉法人 山ノ内町社会福祉協議会	171,000	上下水道の復旧を待ち入浴できない状況が続く奥能登地域の被災者に対し、山ノ内の温泉を福祉避難所や仮設風呂に運び、温かいお湯に浸かる機会を提供する。 温泉・運搬タンクは渋温泉旅館組合が無償提供する。介護等を要する高齢者や障がい者の方なども安心して利用できるよう介助ボランティアも同行する。 輪島市門前町において、1月26～27日、2月23～24日に温泉提供を行う。また、2月11日には能登町のNPO法人リエラに簡易浴槽を提供し、入浴支援コーナーを設置する。
2_3		長野市	公益社団法人 長野県介護福祉士会	133,000	奥能登地域(七尾市、輪島市等)において、断水により1か月以上入浴できずにいる介助を要する避難者に対し、入浴の機会を提供する。 災害NGO結(現場ニーズとのマッチング)や塩尻市社福、辰野町社協(入浴車・オペレーター手配)と連携し、現地に入浴車を持ち込み、社会福祉施設や戸別訪問を通じて入浴介助を行う。また現場の求めに応じ、避難所の整備や災害廃棄物の処理等も臨機応変に支援する。 2月1～4、8～11、15～18日の4日×3クールで実施し、前後1日で準備・片付けや移動、中2日で現場支援を行う。
3_1	重機 ボランティア	須坂市	須坂龍神会	172,000	珠洲市において、住宅が倒壊した方を対象に、重機やチェーンソーなどの機械操作や高所や狭隘な場所での活動など、消防職員としての能力を活かし、被災者の困り事への要望に応え、生活再建を支援する。 倒壊家屋の屋根や壁・床を除去し、瓦礫の中から被災者一人ひとりの大切な品(走行可能な自動車、納骨前の骨壺、家族の写真、金庫など)を慎重に救出する。 2月7～9、14～16日の間、食事や睡眠休憩を完全に自己完結で行いつつ、日本笑顔プロジェクトや現地技術系ボランティア(DRT-JAPAN、DEF-TOKYO)、珠洲市災害VC等と連携し、活動する。
3_2		原村	特定非営利活動法人 絆JAPAN	172,000	地震で倒壊した家屋内から貴重品や思い出の品物を捜索・回収し、被災建物のがれき撤去、搬出運搬を行う。 現地被災者グループのボランティアチームと連携し、在宅避難者や避難所の方のニーズを聞き取り、支援物資を手配する。 技術系ボランティア、建築士が被災者と面談し、被災建物応急修理やリフォーム相談を行う。 メンバーを交代で現地に派遣し、2月14日から3月末まで目途に現地で活動する。
4_1	その他 (農家民宿再 建・中間支援)	安曇野市	清水里山整備協議会	171,000	能登町宮地地区にある農家民宿群「春蘭の里」における早期の機能復旧を支援する。 「春蘭の里」内の旧校舎・交流宿泊所こぶしは既に地域住民の避難所、被災地支援者の宿泊場所となっている。地震で崩壊した本部事務所を仮設し、そこを拠点に他の農家民宿群の復旧(建築士安全確認と片付け)を進めることで、奥能登地域全体の災害ボランティアに対する宿泊先を確保する。 長野市災害ボランティア委員会・安曇野市社協等の協力を得て現場に安全確認・片付け要員を派遣し、災害ボランティアの民宿受け入れは能登町社協と連携する。2月下旬から仮設事務所を設置し、3月から順次現場復旧を進める。
4_2	その他 (生活再建・漆 芸文化保全)	佐久穂町	チームうるし	171,000	輪島市に生活経験のある漆芸従事者から成る「チームうるし」が、域外避難中の輪島塗従事者・漆芸を学ぶ若者ら被災者と現地へ向かい、住居兼工房の家財(江戸時代以降の今では手に入りづらい貴重な道具・材料を含む)を救出する。 重要無形文化財「輪島塗」産地の輪島市は日本の漆芸文化の礎であり、町中に張り巡らされた分業ネットワーク(制作統括の塗師屋、木地、下地、塗り、沈金、蒔絵、下地の糊を作る人、磨く人など10超の専門職種)を通し、一つの漆器が制作される。輪島市漆器商工課、県立輪島漆芸技術研修所、輪島工芸会、輪島漆器商工業共同組合等と連携し、漆芸従事者の生活再建と「輪島塗」分業体制の復興を支援し、伝統文化継承の断絶を防ぐ。

2024. 3. 21

令和6年度 能登半島地震災害支援 活動報告 〈南部防災対策協議会〉

(一社) 長野県建設業協会

1 これまでの支援状況

(第1陣：1月 5日)

(第2陣：1月10日)

ブルーシート 計6, 259枚

セーフティーコーン 計1, 209本

コーンバー 計 650本

※建設業協会の車両で国土交通省北陸地方整備局 金沢河川国道事務所(金沢市)に搬入

2 中部地方整備局 TEC-FORCE による支援活動

・国の TEC-FORCE (緊急災害対策派遣隊) に中部地整管内の県内建設関連企業(建設会社、測量・調査・設計会社)が 同行して支援活動

・主な活動内容【別添資料】

砂防調査班(緊急調査) : 測量設計会社
8日間(1/2~1/9) [輪島市]

応急対策班(トイレ支援) : 建設会社
7日間(1/27~2/2) [輪島市]

燃料補給班(避難所給油) : 建設会社
5日間(1/13~1/17) [穴水町・輪島市]

3 今後の支援活動

・現地での受け入れ態勢が整い次第、具体的な派遣要請があると思われるため、すぐに出動できるよう体制を構築済み

・現地の状況や支援ニーズを把握するため、(本日)3月21日、石川県建設業協会と協議を実施



令和6年能登半島地震 災害支援調査報告（第1班）

中部地方整備局TEC-FORCE
砂防②班

南信防災情報協議会
(株)ゼンシン
馬場測量設計(株)

南信防災情報協議会

1. 支援活動の日程



●班編成(砂防②班)

- 天竜川上流河川事務所
班長 福本晃久 工事品質管理官
福山喜英 係長
松原翔太郎 技官
小林由祐 専門官
向山光春 運転手

- 南信防災情報協議会
馬場規生 (馬場測量設計)
小澤学 (ゼンシン)
前島洸大 (ゼンシン)

●日程

- 令和6年1月2日から令和6年1月9日
- 1月3日(水) 県庁打合せ・調査個所のマッピング
- 1月4日(木) 緊急調査 中エリア 1箇所
UAV調査許可手続き中
- 1月5日(金) 調査取りまとめ
調査個所のマッピング
- 1月6日(土) 緊急調査 中エリア 7箇所
UAV調査
- 1月7日(日) 調査取りまとめ
- 1月8日(月) 緊急調査 西エリア 4箇所
UAV調査、調査取りまとめ
- 1月9日(火) 引継ぎ (静河班へ)

2. 支援活動の内容

ドローンを活用した砂防施設の調査

現地状況に応じた安全なUAVの航行

・全天候型UAVの活用



・有資格者によるUAV操縦



・UAVの監視体制



・調査箇所の状況把握

UAVの鳥瞰映像を共有し、溪流の状況や移動ルート等を事前に把握した

・溪流の状況



・大型モニタでの視覚共有



・操縦モニタでの視覚共有



2. 支援活動の内容

・遠隔からの変状把握

アクセス困難な箇所や危険個所に位置する施設の変状把握を行った

広角カメラの映像



ズームカメラの映像



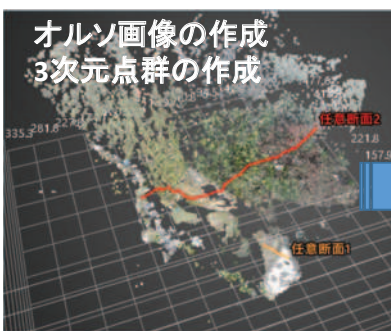
アクセス困難箇所の土砂崩壊状況



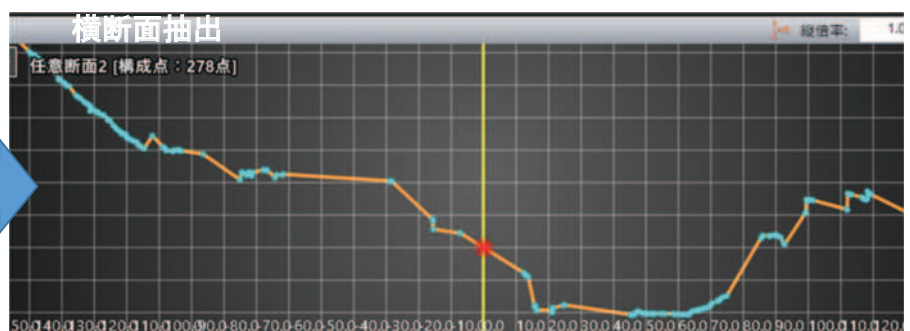
・崩壊規模の推定

UAV写真測量の手法で3次元点群を作成し、崩壊の範囲規模を推定した

オルソ画像の作成
3次元点群の作成



横断面抽出



3. 教訓

■ 現地での行動が自己完結できる準備の必要性

上下水道

・被災地では上下水道が使えなくなっているため、トイレが使用できない。

➡ ・携帯トイレの準備が必要である。

道路状況

・道路の段差、舗装の亀裂等が多くの箇所で見られ、パンクしている自動車が多く見受けられた。
・パンク修理キットのみで、スペアタイヤが積まれている車両もある。

➡ ・パンク修理キットでは補修できないほどのパンクとなるため、スペアタイヤの準備が必要である。

通信状況

・電話通信、インターネット通信ができない状況が発生していた。
・外部と連絡が取れない、現地作業時に地図の表示ができない

➡ ・衛星携帯を準備し、外部との連絡手段を確保する。
・オフラインでも作業できるように、地図の事前にダウンロードも有効である。

■ 予期せぬ事態への対応

・道路状況の情報が錯綜しており、通行止め箇所一般の車両が入り込むことで、交通が遅延する状況が発生した。
・調査以外に交通整理や誘導、情報の伝達等の作業が発生した。

➡ ・現地での道路状況の聞き取り、関係者との連携により対応ができた。
・交通誘導棒が有効活用できた。



3. 教訓

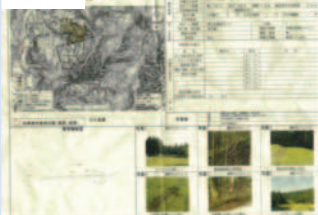
■ オープンデータの活用の有効性

・現地調査を効率的にできるオープンデータが発災前後、多くの団体から提供されている。
・現地で得られる情報には限りがある。情報収集を行う時間にも限りがある。事前にどんな情報が取得可能か把握していることが重要。

オープンデータの例(SABOアイ)



カルテ

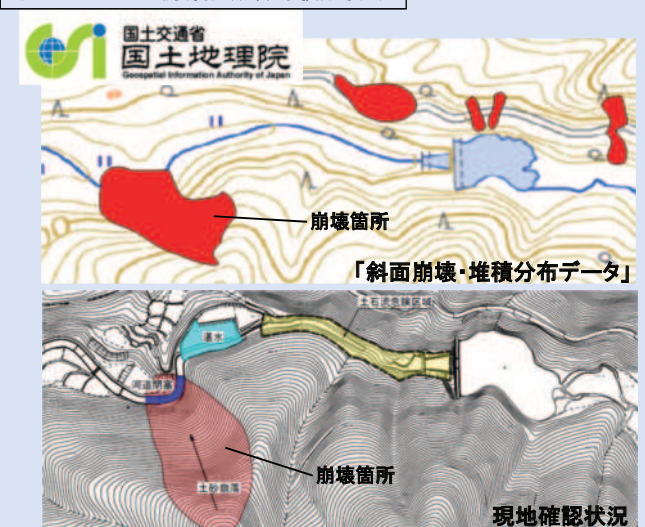


紙地図にマッピング



・現地では当初、紙地図と紙カルテから調査箇所の割り振り等を行い、相応の時間を要した。
・土砂災害情報システムを活用することで、効率的な調査計画が可能であったと感じた。

オープンデータの例(斜面崩壊・堆積分布図)



・国土地理院が1/2から順次公開する能登半島の「斜面崩壊・堆積分布データ」は、現地の斜面崩壊の状況をよく反映したものとなっていた。
・こうした情報を事前に把握していれば、崩壊箇所の集中的に計測する等、UAV調査の幅が広がるように感じた。

○道路の被災により現場との移動に14時間かかる状況が発生しました。天候の急変、通信環境の遮断等もみられ、被災地での活動の困難さを痛感しました。

○災害現場の調査は、時間的な制約が大きい中、持ち込んだ資機材と技術力でやりくりしていくしかありませんでした。調査の成果は、事前準備と技術者一人一人の能力に大きく左右されると実感しました。日常業務から現場で使える技術の研鑽に努める必要性を感じました。

○災害現場では、現地での生活や調査が非日常的なものでした。災害調査の経験がないと、調査が容易ではない場合も少なくありませんでした。今回の体験を貴重な機会ととらえ、社内外にフィードバックしていくことが必要だと感じました。

ご清聴ありがとうございました。

能登半島地震災害支援 活動報告



谷川正和 宮澤卓哉

■災害支援業務概要

《日程》

1月27日(土)	移動
1月28日(日)	トイレ運搬、設置、管理(富山防災センターから輪島市)
1月29日(月)	ホテル待機(調査内勤のため)
1月30日(火)	トイレ設置、管理(比丘尼沢ポケットパーク)
1月31日(水)	トイレ設置、管理、撤収(富山防災センターまで)
2月1日(木)	トイレ清掃、燃料補給
2月2日(金)	引き継ぎ

《支援内容》

砂防調査班の使用するトイレ管理

《場所》

石川県輪島市縄又町藤池25 比丘尼沢ポケットパーク

■活動報告

《移動》

地盤の隆起やクラックなど、路面状態が悪く移動は非常に困難だった

災害から間もない時期でしたが、碎石での穴埋めや仮舗装で素早い応急措置がされていた場所もあった



■活動報告

《トイレ管理業務》

常流式トイレ(小さな浄化槽)を清掃、発電機で循環ポンプをまわす



■活動報告

《連絡体制、引継ぎ》

災害派遣業務中は、飯田国道事務所竹内副所長とメール、電話で随時連絡を取り合った

トイレの清掃、発電機・ユニットの燃料補給、固定の確認、第一陣からの引継ぎ事項共有等を実施し、次の部隊へと引き継いだ



■まとめ

震災があった場所での活動は余震などの不安がありました。

今回は電話やメールで密な情報交換を行いました。有事の際は、お互いの作業場所、内勤や外勤など、作業員・事務員を含めてリアルタイムで確認できるものが確立されていると、より作業員の不安は軽減されると感じました。

(メッセージプラス・LINE等のアプリでグループを作って、既読を確認でき、相互で情報共有が出来るもの)

今回の派遣で少しでも復興の役に立てたなら幸いです。

情報など少ない中、各方面の方々の助けもありとても良い経験をさせていただきました。ありがとうございました。



石川県能登半島地震災害支援報告

長野県南部防災対策協議会
【TEC - FORCE支援】

浅川建設工業株式会社

伊澤 浩一

概要

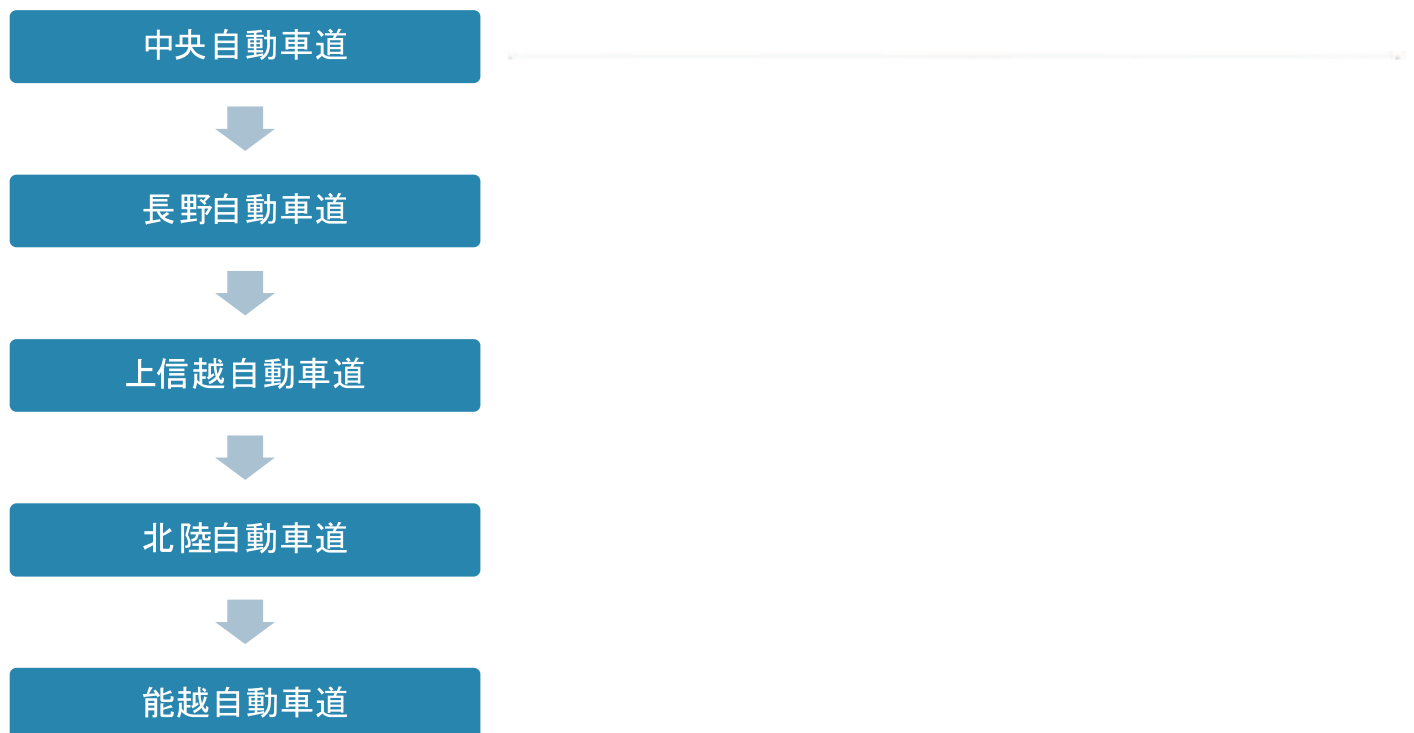
期間 5日間【1月13日(土)~17日(水)】

活動内容 避難所の発電機に燃料を給油

スケジュール

1月13日(土)	7:00	浅川建設工業本社（箕輪町）出発
	10:30	駒ヶ根天竜川上流工事事務所 出発
	17:30	石川県穴水町役場 到着・引継ぎ
	20:30	金沢宿 到着
1月14日(日)	7:00	金沢宿 出発
	10:15	穴水町基地 到着
	12:07	諸岡公民館避難所 到着・給油
	14:58	輪島市港避難所 到着・給油
	20:30	金沢宿 到着
1月15日(月)	7:00	金沢宿 出発
	9:50	穴水町基地 到着
	11:05	諸岡公民館避難所 到着・給油
	11:45	原子力防護施設避難所 到着・給油
	15:00	輪島市港避難所 到着・給油
	20:30	金沢宿 到着
1月16日(火)	5:00	金沢宿 出発
	10:30	穴水町基地 到着・引継ぎ
	15:00	富山宿 到着
1月17日(水)	9:00	富山宿 出発
	15:00	天竜川上流河川事務所 到着

石川能登半島までの道のり



移動車

- ・連絡車ハイエース4名宿泊可能
- ・タンクローリー2000リットル



7

避難所までの移動 “道路陥没”

